

小笠原村教育委員会教育長
桐川 勲 様

小笠原村立小笠原小学校長
横山 優美
(公印省略)

令和5年度 小笠原村立小笠原小学校 学校評価の結果等に関する報告

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標及び教育目標を達成するための基本方針

(1) 教育目標

小笠原村立小笠原小学校は、人権尊重の精神を基盤として、一人一人の児童が、知性、感性、創造性及び社会性を育み、人間性豊かに成長することを目指し、次の教育目標を定める。

- 自分を大切にし、思いやりの心をもとう
- 夢や目標を持ち、たえず学び続けよう
- 心と体を鍛え、爽やかな感動を生もう

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ア 学力の向上を図る教育と個性を生かす教育の推進
- イ 人権教育と心の教育の推進
- ウ 体力の向上と健康・安全な生活の確立
- エ 開かれた学校の推進

2 今年度の学校経営方針において重点課題として設定した項目及びその実績

① 確かな学力の向上

- ・「小笠原村学力調査」(2～6年生が実施)の全国の平均正答率の差(%)
国語：2年(+6.7)、3年(+3.5)、4年(-5.6)、5年(+0.4)、6年(+3.6)
算数：2年(+4.0)、3年(-4.2)、4年(-4.7)、5年(+2.0)、6年(+0.6)
- ・「全国学力・学習状況調査」(6年生が実施)の全国の平均正答率との差(%)
国語：(+2.9) 算数：(+4.4)

② 支援体制の充実

- ・全教職員が特別支援教育への理解を深めることができるよう、特別な教育的支援を必要とする児童の指導方法等に関する研修会の実施。すべての児童にとってわかりやすい学習環境の構成や授業実践
- ・特別支援学級、特別支援教室の適正な運営と充実
- ・個別指導計画、教育支援計画に基づく対応・指導、支援引継ぎシートの活用
- ・知的障害学級、自閉症・情緒障害学級の授業の充実と通常の学級との交流及び共同学習の充実
- ・スクールカウンセラー、巡回相談・言語指導等との連携と効果的な指導の実施
- ・学校生活アンケートの実施と活用による対応の充実

③健やかな体の育成

- ・ねらいが明確で運動量が確保された体育の授業の実施
- ・自分の心と体を大切にする指導（保健指導、SOSの出し方に関する指導、性に関する教育）を実施
- ・基本的な生活習慣の確立するため、パワーアップ週間を実施
- ・毎月の安全指導の徹底、交通安全、災害安全に関する指導の充実
- ・望ましい食習慣を目指し、食育放送や食育コーナーにより効果的に指導を実施

3 関係者評価の概要

ア 地域 回答率 5%（配布総数 60件）

- ①学力向上について「よくあてはまる」「ややあてはまる」が66.6%、「不明」が33.3%
- ②相談体制について「よくあてはまる」「ややあてはまる」が66.6%、「不明」が33.3%
- ③健康体力について「よくあてはまる」33.3%、「不明」が66.6%

イ 保護者等 48%（配布総数 97件）

- ①学力向上について「よくあてはまる」「ややあてはまる」が93.7%、「あてはまらない」が4.2%
- ②相談体制について「よくあてはまる」「ややあてはまる」が66.7%、「あてはまらない」が24.5%
- ③健康体力について「よくあてはまる」「ややあてはまる」が87.5%、「あてはまらない」が4.2%

ウ 児童 90%（児童数 132人）

- ①学習が好きについて「よくあてはまる」「ややあてはまる」が92.4%、「あてはまらない」が7.1%
- ②相談体制について「よくあてはまる」「ややあてはまる」が82.3%、「あてはまらない」が15.1%
- ③健康体力について「よくあてはまる」「ややあてはまる」が85.7%、「あてはまらない」が15.9%

エ 教職員（教職員へは児童の学校評価の結果を受けて、自由意見によるアンケート調査を行った）

- ①教科等横断的に言語活動の充実を目指した授業を行ったことにより、授業に活気が出てきて、学び合いの態度が育っている。（6人）
- ①漢字小テストの結果が、1学期と3学期を比べると20%以上上昇している。（2人）
- ①算数ベーシックドリル（3～6年）の結果が、1学期と3学期と比べると上昇した。（5人）
3年：63.2%（+0.4） 4年：47.9%（+12.7）
5年：56.3%（+4.2） 6年：42.1%（+10.9）
- ②朝の会や弁当に時間などに副担任がクラスに入ることで、子供との関係性が深まっている。担任以外の大人に相談する機会が増えている。（2件）
- ③コロナ禍以降、体力の低下が感じられる。年間を通して、運動の機会を設ける。また、体の動かし方や器具の扱いを知らない児童も多くいるので、体力テスト前には事前に経験させたい。（8件）
- ③保健掲示物が、いつも素晴らしく、楽しみながら健康に関する内容について、児童が興味をもっている。（3件）

【考察】

- ①校内研究や研修等を通して、効果的な指導方法を共通理解したり、児童がどこでつまづいているのかを明らかにしたりしながら、わからなかったが「わかる」、できなかったところが「できる」ようになる授業を目指して、授業に取り組んでいく。
- ②児童が適切な援助希求行動がとれるよう、相談体制を充実させるなど、児童が教員に相談しやすい雰囲気づくりをしていく。
- ③校庭などでの外遊びを促すとともに、運動集会など年間を通して計画的に体を動かす機会を増やしていく。

4 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組①	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上に関する取組(重点8項目) ○校内研究(言語活動の充実) ○授業改善プラン ○OJTの充実 ○小笠原学習の充実 ○学習者用端末の活用促進 ○学習スタンダード等学習規律の徹底 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究では、教科等横断的に言語活動の充実に向けた授業実践を行った。 ➡児童の授業満足度「よくあてはまる」「あてはまる」96.6% ・基礎基本の定着を図る時間「スキルタイム」では、学習者用端末を活用することで、児童一人一人の課題に応じた学習を進めることができた。 ➡6年「全国学力・学習状況等調査」昨年よりも国語(11.9%)、算数(12.0%)上昇した。 ・継続して成果を得られるよう、一単位時間の授業の進め方や特別な配慮を必要とする児童への支援例をまとめた「担任心得」を活用し、児童が安心して学習に取り組むことができる環境をより充実させる。 ➡地域の方からの自由意見「どの授業の内容もわかりやすく、丁寧な指導であった。」「落ち着いて授業に取り組んでいた。」
取組②	支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人の特性や適性の適切な把握 ○児童の実態や発達の段階に応じた系統的・体系的な支援の充実 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制づくり ○外部機関等専門家の活用 ○交流及び共同学習の充実 ○学習支援員の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援引継ぎシート、個別指導計画・教育支援計画に基づき、途切れのない指導・支援を行った。 ・引き続き、学習環境の整備、学習規律の徹底などに全教職員が共通して取り組む。 ・さらに特別支援教室担当、専科教員、養護教諭及び支援員が積極的に協力指導に入るチームティーチングや複数指導を実施する。 ・SCだよりを定期的に発行し、勤務日や業務内容等を保護者・地域に周知する。

取組 ③	健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいを明確にした体育の授業の実施 ○パワーアップ週間を実施 ○食育放送や食育コーナーにより効果的に指導を実施 ○自分の心と体を大切にする指導を実施 ○安全指導の徹底、交通安全、災害安全に関する指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育主任による体育実技研修を実施した。跳び箱運動の校内研究授業を行った。 ・パワーアップ週間では、基本的な生活習慣についての指導を行った。 ・「性に関する指導」「SOSの出し方に関する指導」「薬物乱用防止教室」について実施した。
---------	----------	---	---

5 次年度の学校経営において重点的に取り組むべきと認識する課題

<p>○確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる」「できる」授業を目指した授業実践 ・一人1台端末の効果的な利活用と授業におけるICTの効果的活用 ・教科担任制の実施 ・全教職員による学習・生活スタンダードの徹底 ・個別最適な学びの授業 ➡「小笠原村学力調査」全国正答率より+10%を目指す <p>○特別支援教育（特別支援学級・特別支援教室・支援委員会）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的支援を必要とする児童の観察、実態把握、早期の相談等を行い、全ての児童にとって学びやすい授業や学習環境づくりを実現する ・目的を明確にした「交流及び共同学習」や「小集団指導」を行い、児童相互が多様性を理解し、受け入れ、共に学び生活できる関係づくりを推進する ➡「学校満足度」で「よくあてはまる」「あてはまる」児童96.6%を+2、保護者98%を+2にする <p>○心身ともに健康である児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育的活動や運動の日常化を充実させ、体力テストの分析と活用を行う ・体育等に関する器具の整備 ・基本的な生活習慣の確立を目指す ・食育指導や食育コーナーを充実させ、より望ましい食習慣を目指す ・保健学習の充実等により、自分の心と体を大切にする指導を継続的に行う ➡「体力テスト」で今年度の結果と東京都の平均値を比べると、 1年：「シャトルラン」男子（-3.3）女子（-1.8） 4年：「握力」男子（-0.3）、女子（-0.8） 5年：「長座体前屈」男子（+0.7）、女子（-3.5）と下回っていた。 縄跳びや持久走などの粘り強く続ける運動、固定遊具を使った運動、体ほぐしの運動に柔らかさを高めるストレッチ運動を取り入れるなどして、東京都平均超えを目指す。 ➡「健康体力」で「よくあてはまる」「あてはまる」児童85.7%を+5、保護者87.5%を+5にする
--

*本報告書各項目の記載内容は、次年度の教育課程及び学校経営方針等学校経営に係る各種資料へ反映いたします。